

[花き部門]

## 1. 「旧盆出荷用小ギク電照栽培マニュアル」の作成

[要約]

夏秋小ギク「精こまき、精ちぐさ、すばる、はるか」を用いて、6月まで電照を行い、需要が高まる8月上旬に開花ピークを迎えるための「旧盆出荷用小ギク電照栽培マニュアル」(全12ページ)を作成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター 農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話086-955-0277

[分類] 技術

---

[背景・ねらい]

夏秋小ギクの旧盆出荷作型において、適切な品種を用いて電照栽培を行うことによって、需要が高まる8月上旬に安定的に開花させる技術を開発したので、マニュアルを作成し、普及を図る。

[成果の内容・特徴]

1. 品種は「精こまき、精ちぐさ、すばる、はるか」を用いる。
2. 親株養成時、挿し芽時及び定植～6月上中旬に電照を行う。電照には、75W型電照用白熱電球を用いる。電球は、1.5～2mの高さに、2～3mごとに1灯設置する。親株養成時および挿し芽時は深夜6時間(22時点灯、4時消灯)、定植後は深夜4～6時間(22時点灯、2～4時消灯)の暗期中断を行う。
3. 発蕾が早く、開花が早まると予想される場合には、頂花発蕾時から再電照(深夜22～2時)を行うことで、開花を数日遅らせることができる。発蕾が遅く、開花が遅れると予想される場合には、頂花発蕾時から破蕾時にジベレリン処理(100ppm、2回処理)を開始することで、開花を数日早めることができる。

[成果の活用面・留意点]

1. 再電照によって、側枝数及び花蕾数が減少する場合がある。ジベレリン処理によって、花首が長くなる場合がある。
2. 本マニュアル(図1)は、各農業普及指導センターに配布する。

[具体的データ]



目次

- はじめに-----1
- 技術の概要-----2
  - ◆作型-----3
  - ◆品種-----3
  - ◆栽培技術
    - 1. 育苗
      - (1) 親株養成-----4
      - (2) 挿し芽-----5
    - 2. 定植準備-----5
    - 3. 定植-----5
    - 4. 電照-----6
    - 5. 管理
      - (1) 摘心-----7
      - (2) 整枝-----7
      - (3) かん水-----7
      - (4) 支柱、ネット張り-----7
      - (5) 病害虫防除-----7
    - 6. 収穫出荷-----7
    - 7. 開花後調節
      - (1) ジベレリン処理-----9
      - (2) 再電照-----10
- 電照について-----11

**技術の概要**

小ギクは、昼間が所定の時間よりも短し（夜の時間が長し）に花芽の分化・発達が促進される「短日植物」で、夜間の電照（長日処理）によって花芽分化および発達を抑制できる。夏秋小ギクも、長日処理によって花芽分化・発達を抑制することができるが、品種によって効果は大きく異なり、夜間の電照によって花芽分化・発達が大きく抑制される品種から、ほとんど抑制されない品種まである。本技術では、電照によって花芽分化・発達が大きく抑制される品種を用いて、定植時から6月まで電照を行い、8月上旬に開花ピークを迎えることを目的としている。以下、適応品種や電照栽培技術の概要について解説する。

**旧盆出荷用電照栽培のイメージ**

電照期間			自然日長期間		
定植	摘心	消灯	発蕾	開花	
4月 4月中旬	4月 下旬	6月 上旬	7月 上旬	7月 中旬	8月 上旬

**これまでの栽培のイメージ**

自然日長期間					
発蕾、開花日の変動が大きい					
定植	摘心	発蕾	発蕾	開花	
4~6月が暖かった場合など				7月 7月中旬	8月 8月中旬
4~6月が寒かった場合など				6月 下旬	7月 上旬

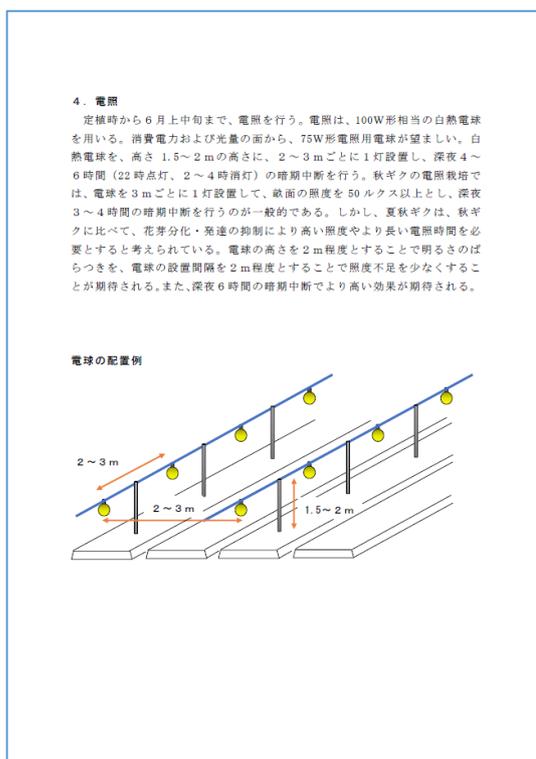


図1 マニュアルの抜粋

[その他]

研究課題名：温暖化に対応した夏秋需要期キク安定開花調節技術の開発

予算区分：受託（気候変動プロ）

研究期間：2010~2014年度

研究担当者：森義雄、中島拓、藤本拓郎